

アウル通信



2020.4.1 発行 第216号

『96歳の婦長さん』

わたしが、特別養護老人ホームの寮父時代にお世話になった看護師（当時は婦長）さんがいます。当時は、看護と介護の間で、お互いの正しさばかり主張して、なかなか折り合いがつかないことだらけで、ことある毎に衝突していました。衝突の要因は、それぞれの持つ専門性の主張でした。

しかし、話し合いの繰り返しの結果、次第に焦点を自分たちの専門性の主張ではなく、お爺さんお婆さんにとって何がベストなのか目的に、それぞれの専門性をどう発揮していこうかに焦点を当てて話をしゆくと、お互いの実際の看護や介護がうまくかみ合うようになっていきました。その方にとって、とてもいい感じになっていったのを覚えています。

その基本となったのが、どこに焦点を合わせるかでした。人はそれを目標、目的、到達点、目指す方向、理念などなどと様々に表現されますが、その本質は、今目の前にいる方の“生きる幸せ”にどう応じるかだと思いました。そしてお互いの仕事の目的を共有することで、互いの人格を尊重する関係へと繋がっていったのです。

その婦長さんは、今現在、96歳で現役の看護師さんとして、デイサービスセンターで利用者様の健康をチェックするなどの仕事をしています。凄いです。僕は尊敬を通り越して、神様だと思っています。

わたしの「人」としてのお手本は婦長さんです。

わたしたちは、パズルのピースのひとつです。それぞれがそれぞれの場所で輝くように生きることではないでしょうか。わたしたちの前にはいろんな壁が立ちはだかります。でもどの壁も「お互いに補い合うことで乗り越えられる壁」ばかりです。きっとわたしたちは、この壁に立ち向かえられるように、バラバラな形をしているのだと思います。お互いの穴や凹みを補えるように。

感謝

アウル 宮崎 直人



宮崎先生が感銘を受けた本
「満月の夜、母を施設に置いて」
藤川 幸之助 著 中央法規

寝たきり ②

そしていつもと変わらない
笑い声で私に顔を近づけてくる

施設の寮母さんが
母のあごを指さし
深々と頭を下げられた
ところこそお手数をおかけしまして
ともしっかりと深く頭を下げる
その谷間で母は笑っていて
私は母の頭を上から押し付けるようにして
一緒に謝った

できれば一緒に暮らしたいのですが
何せ働いていてどうしようもなく
と言いつつがましいことを言った
今は無理でも
寝たきりになられば
働いている間はヘルパーさんに任せ
一緒に暮らせますよと
移設の方がおっしゃった

母の病気の進むのを私は
願わなければならぬのか
この青さは母が生きている証なのだ
今度母と一緒に暮らせるのは
母が生きていることを止め始めたときか
母の青さをやさしくなせてやった

〈今月の出来事〉

○ひな祭り

〈実習生〉

○誕生会

今月、実習生はおりません。

《編集後記》

今月の題字は、野口恵子様と
書いて頂きました。
新しいフォントに感銘かよう
充分に注意してください。



発行責任者 宮崎 直人

3月3日

ひなまつり



お祭りケーキも
美味しく頂き
おたのしみ

あかま
つけね
おんほいに



Happy Birthday



長内 操様
昭和4年3月11日

91歳



ご家族の皆様へ

今日、全国的に新型コロナウイルスが流行して
お祝い。芸能人がたくさんいると猛威を
振るっている状況です。

引き続きご家族の皆様には、ご協力も頂き
ながらご本人様の体調が十分に注意して
お祝い。おしくお願ひ致します。